

デジタル教材を使った日本語教育の実践
USING THE DIGITAL MATERIALS IN JAPANESE LANGUAGE
TEACHING CLASSROOM EFFECTIVELY.

山田智久 (佐賀大学)
YAMADA Tomohisa, Saga University.

Abstract: Japanese language teacher tend to be left behind in this age information and technology. In this presentation, the author tries to present some practice using not only computer but also digital gadgets such as digital camera, iPod, iPad and so on. Through this presentation, the author primary intends to make lower the threshold of introducing the ICT Japanese classroom.

近年の技術発達は、めざましく、私たちの日常にも新たなデジタル機器が溢れている。パソコンに始まり、iPad や iPod などの新興デジタル機器の隆盛を見ると、私たちの生活スタイルそのものが大きく変化しているのを感じる。しかし、テクノロジー自体が発達してきているにも関わらず、私たち日本語教師の授業は、いまだオーセンティックなものが主流である。

本発表は、デジタル機器をどのように日本語教育の現場に活かすことができるのかについて授業実践例を紹介しながら検討するものである。

【Keywords: ICT, Digital Material, Computer, iPod, Motivation】

1. デジタル教材を活用する意義

なぜ、デジタル教材を使う必要があるのか。この点についてまずは考えてみたい。デジタル教材を活用するメリットは、大きく分けて、学習者への利点と教師への利点の二つの視点に分けることができる。学習者にとっての利点は、「学習意欲の持続」に尽きるであろう。ケラー (2010) が、ARCS モデルで指摘しているように、学習体験をいかにして刺激的なものとし、学習を続けたいという気持ちにさせられるかについて、デジタル教材は、効果を発揮する。

表 1: ARCS モデル

主分類枠	定義	作業質問
注意 Attention	学習者の関心を獲得する。学ぶ好奇心を刺激する。	どのようにしたらこの学習体験を刺激的でおもしろくすることができるか。
関連性 Relevance	学習者の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	どんなやり方で、この学習体験を学習者にとって意義深いものにできるか。
自信 Confidence	学習者が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための手助けをする。	どのようにしたら学習者が成功するのを助けたり、自分たちの成功に向けて工夫するための手がかりを盛り込めるだろうか。
満足感 Satisfaction	内的、外的報酬によって達成を強化する	学習者がこの経験に満足し、更に学び続けたい気持ちになるためには何をしたら良いだろうか

一方で、教師の利点には、どのようなものがあるだろうか。本発表の筆者

が強く感じるのは、「教師の振り返りが可能」となる点である。この点に関して、山田（2012）は、次のように説明している。

教師の成長を促すには、それなりの材料が必要です。ただ、漫然と経験を積むだけでは、絶対に良い教師にはなることはできません。「自分は、どんな教師なのかな」、「どういう教え方のスタイルを好んでいるのかな」という疑問を持ったときに、作ってきた教材を見返すと、教師としての自分の足跡が見えます。この振り返り作業に ICT は力を貸してくれます。紙の教材でももちろん、振り返りは可能ですが、ICT を活用すると、自分の授業を録画したり、ホワイトボードをデジタルカメラで撮ったりなど、授業を多面的に眺めることが可能となります。様々な形態で授業と教材の記録を残し、授業のフォルダにまとめて入れておけば、ポートフォリオとしての深まりも期待できるので、非常に効果的です。

2. デジタル教材の活用実践

上記のようなデジタル教材が持つ利点が見えているにも関わらず、日本語の授業でデジタル教材が普及しない理由には、二つの原因が考えられる。ひとつは、デジタル機器そのものが整備されていないという問題である。もうひとつは、デジタル機器を使った授業実践例の欠如である。特に後者の問題は、喫緊に解決すべき問題である。なぜなら、デジタル機器を活用した授業において、多くの日本語教師が、「どの授業で」、「なにを」、「どのタイミング」で使えば良いかがわからない状態だからである

本稿の発表者は、自身の授業に積極的にデジタル機器を導入してきており、その過程で、失敗も含めたデジタル教材活用に関する知見の蓄積が多数なされてきている。本発表では、それらのデジタル機器を使った授業実践を次の2つの観点から実際にデモンストレーションすることで紹介する。

A) パソコンを活用した日本語授業

教材のポートフォリオ化の方法
教材の整理の仕方

B) 身の回りのデジタル機器を活用した日本語授業

iPod touch を使った音声指導の一例
デジタルカメラを使った課題の一例
デジタルカメラを使った授業の振り返り方法

これらの授業実践例の紹介により、具体的な授業のイメージが想起でき、「難しそう」と思われているデジタル機器を活用した日本語授業の敷居が下がることを期待する。

【参考文献】

1. J.M.ケラー著、鈴木克明 監訳（2010）『学習意欲をデザインする ARCS モデルの分類枠モデルによるインストラクショナルデザイン』北大路書房 p47-48.
2. 山田智久（2012）『日本語教師のための Tips77 第二巻 デジタル授業の工夫と実践』 くろしお出版